

令和5年度

事業報告書

自 令和5年 1月 1日

至 令和5年12月31日

公益財団法人 競走馬理化学研究所

I 概要

わが国の競馬は中央競馬、地方競馬ともに安定的に実施されており、その発売金は2012年から連続して増加している。

こうした状況の下、競走馬理化学研究所は、競馬の公正確保等に必要な各種検査を実施し、また、検査法の改良や開発、その他の調査研究を実施した。

薬物分析事業では、新たに開発した馬の薬物検査法を用いて、国内競馬主催者からの依頼に応じた競走後検査及び競走外検査を実施し、また、国内外の馬術競技馬の検査、海外競馬検体の検査、競走馬に用いる飼料の検査、騎手の検査及びその他各種の検査を実施した。さらにISO/IEC 17025の認定維持に必要な再審査を受審するとともに、薬物分析法等に関する調査研究を行った。

遺伝子分析事業においては、血統登録機関、競馬主催者、競馬関係団体、馬所有者等からの依頼に応じて、馬の親子判定及び個体識別検査、遺伝子ドーピング検査、遺伝子改変検査、馬伝染性子宮炎検査、競走馬の遺伝子検査等を実施した。さらに、遺伝子分析等に関する調査研究を行った。

国際リファレンスラボラトリー体制強化事業では、国際競馬統括機関連盟（IFHA）及び国際馬術連盟（FEI）のリファレンスラボラトリーの指定を将来とも安定的に維持することを目的に、高度分析機器の整備、標準品等の購入、海外分析化学者の雇用及び職員の海外研修を実施した。

II 事業内容

1 薬物分析事業

1) 競走馬の薬物検査

(1) 競走後検査

競馬主催者から依頼された 46,817 件の競走後の検体について、禁止薬物及び規制薬物の検査を実施した。その結果は、規制薬物の陽性を 7 件で認めた。また、2024 年 4 月以降に規制の対象となる薬物の陽性を 19 件に認めた。

[検査件数の内訳]

主催者等	検査件数	主催者等	検査件数	主催者等	検査件数
中央競馬	10,376				
地方競馬 計	36,441				
帯広市	3,577	千葉県(船橋)	1,805	愛知県(名古屋)	3,573
北海道(門別)	2,389	特別区(大井)	3,130	兵庫県(園田)	3,532
岩手県(盛岡)	1,766	神奈川県(川崎)	2,043	〃(姫路)	836
〃(水沢)	1,659	石川県(金沢)	2,074	高知県(高知)	2,845
埼玉県(浦和)	1,816	岐阜県(笠松)	2,182	佐賀県(佐賀)	3,214

(2) 競走外検査

競馬主催者から依頼された 6,065 件（日本中央競馬会 5,762 件、地方競馬主催者 303 件）の競走外の検体について、アナボリックステロイド等の検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。また、2024 年 4 月以降に規制の対象となる薬物の陽性を 3 件に認めた。

(3) その他競走馬の薬物検査

競馬主催者から依頼された来日競走馬の薬物検査、海外競馬主催者から依頼された海外出走予定日本馬の薬物検査、海外競馬 B 検体の検査及び陽性事例に関連した薬物検査等を実施した。

2) 飼料及び医薬品の薬物検査

(1) 飼料の薬物検査

飼料業者等から依頼された飼料の薬物検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。

(2) 医薬品の薬物検査

競馬主催者から依頼された医薬品の薬物検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。

3) 騎手の薬物検査

競馬主催者から依頼された検体の薬物検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。

4) 馬術競技馬の薬物検査

国内外の馬術連盟から依頼された検体の薬物検査を実施した。その結果 12 件の陽性を認めた。

5) セール上場馬の薬物検査

トレーニングセールの主催者から依頼された検体の薬物検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。

6) その他の理化学的検査

ばんえい競馬の能力検査及び海外輸出馬の薬物検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。

7) 薬物分析等に関する調査研究

(1) 薬理的及び分析化学調査研究

「質量分析イメージングによる被毛検査法の基礎的検討」

本研究は、質量分析イメージング (MSI) による被毛検査法の有用性について検討する目的で、2023 年度から 2 年計画で実施している。

2023 年度は、vadadustat 投与後のウマたてがみを用いて、MSI による薬物の検出を試みた。その結果、簡便な前処理で迅速に薬物が検出できることが確認され、薬物のたてがみ内の分布部位は過去に実施したセグメント分析の結果と符合した。

「ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析 (HS-GC/MS) 法を用いた総二酸化炭素量 (TCO₂) 検査法の開発」

本研究は、現行の TCO₂ 検査法に変わる方法として HS-GC/MS 法を当研究所に導入す

ることを目的とし、2023年度から2年計画で実施している。

2023年度は、標準品・試薬の準備及びHS-GC/MS法の報告論文を基に分析方法の検討を行い、妥当性確認を実施出来る体制を構築した。

「FAIMS インターフェースを用いたペプチド検査法の改良」

本研究はFAIMS インターフェースを質量分析機器に導入して尿におけるペプチド分析の高感度化を図ることを目的とし、2023年度の単年度計画で実施した。

前処理方法において、尿の使用量を3 mL から1 mL へ変更し、固相抽出カラムをWaters 社製 OASIS WCX から Agilent 社製 NEXUS WCX へと変更した。また、尿中の夾雑タンパク質の除去を目的として、尿へアセトニトリルを添加した。さらに質量分析器にFAIMS インターフェースを導入した上で、パラメーターであるCVについて尿由来の夾雑成分が除去される条件を最適化した。その結果、尿由来の夾雑成分が除去されてバックグラウンドレベルが低下し、多くのペプチド検出物質で最小検出濃度の改善が認められた。以上の結果に基づき、本改良法を2024年度中の検査への導入を目指す。

「LC システムの変更によるエリスロポエチン検査法の改良」

本研究は、エリスロポエチンの検査法の安定的な測定環境構築のため、nano-LC システムを通常のLCシステムへの変更について検討することを目的とし、2023年度から2年計画で実施している。

2023年度は、通常のLCシステムを使用して、ヒトエリスロポエチンに特徴的なペプチド断片(T6とT17)をIFHA Reference Laboratories Annexure Cで定められた濃度(100 pg/mL)での血漿への添加回収試験を実施した。その結果、通常のLCシステムによっても添加ペプチド断片が検出できることを確認した。

(2) 受託研究

「治療薬物の薬物動態に関する調査・研究」

本研究はJRAから依頼を受けたプリジノール及びクロルフェニラミンを対象薬物とし、各薬物のスクリーニングリミット(SL)及び検出時間(DT)の設定に必要な薬物動態学的/薬力学的(PK/PD)解析データを得ることを目的として、2023年度の単年度計画で実施した。

プリジノールについて、薬物投与後の血中及び尿中濃度を用いたPK/PD解析の結果、薬理効果と無関係な尿中薬物濃度(IUC)は定量限界未満の値となり、SL及びDTの設定は困難であることが示唆された。

クロルフェニラミンについて、薬物投与後のクロルフェニラミン(CP)と代謝物であるデスメチルクロルフェニラミン(DCP)及びダイデスメチルクロルフェニラミン

(DDCP) の血中及び尿中濃度を用いた PK/PD 解析の結果、CP と DCP の IUC は定量限界未満の値となり、SL 及び DT の設定は困難であることが示唆された。一方、DDCP の IUC は定量範囲内であり、本物質を検出物質とした場合は SL 及び DT の設定が可能であることが示唆された。

「検査対象薬物の拡大に関する研究」

本研究は、低酸素誘導因子活性化薬の daprodustat を検査対象薬物に追加するために必要な実験データを収集することを目的として、2023 年度から 2 年計画で実施している。

2023 年度は、daprodustat 投与後の血漿及び尿に含まれる未変化体及び代謝物の網羅的な分析を行った。その結果、未変化体が優位に検出され、4 種の代謝物が僅かに検出された。また、daprodustat 投与後の血漿及び尿における未変化体の消失挙動を調べた結果、血漿は投与後 5 日、尿は 14 日まで検出可能であった。

(3) 調査研究成果の報告及び情報収集

9 月に香港で開催された第 23 回競馬分析化学者及び競馬獣医師の国際会議 (ICRAV) に 6 名が参加し、4 題の研究結果を発表した。

11 月 30 日に開催された第 25 回禁止薬物問題に関する連絡協議会に、委員 1 名、諮問委員 1 名及びオブザーバー 4 名が参加した。

その他、国内外の会議及び学術集会に延べ 22 名が参加した。

8) 薬物検査法審議委員会の開催

(1) 委員

氏名	職名等
尾崎 博	(学)加計学園 岡山理科大学獣医学部 教授
川原 貴	(公財)日本スポーツ協会 アンチ・ドーピング部会 部会長
輿石 一郎	(大)群馬大学大学院保健学研究科 教授
下田 実	(大)東京農工大学 名誉教授
豊島 聡	(一財)バイオロジクス研究・トレーニングセンター 代表理事
本間 浩	(一社)薬学教育協議会 代表理事
吉田 武美	(公社)薬剤師認定制度認証機構 顧問

任期：2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

(2) 委員会の開催

第 59 回薬物検査法審議委員会を 5 月 27 日に開催し、(第 58 回同委員会において

承認された「馬の薬物検査法」を用いた) 1月1日以降の薬物検査の実施状況について、報告した。

9) 技能試験への参加

薬物検査機関としての国際的な資格維持のため、公認競馬化学者協会並びに IFHA が実施する各々技能試験に参加し、正答率 100%の成績を収めた。

2 遺伝子分析事業

1) 軽種馬の遺伝子検査

(1) 親子判定及び個体識別検査

公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルから依頼された 7,999 件の検体について、血統登録のための親子判定検査、繁殖登録馬及び輸入馬等の個体識別検査を実施した。その結果、全て親子関係又は個体識別の一致が認められた。

(2) 毛色検査

公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルから依頼された検体の芦毛を決定する遺伝子の検査を実施した。

(3) 遺伝子改変検査

公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルから依頼された検体の遺伝子改変検査を実施した。その結果、全て陰性であった。

2) 軽種馬以外の遺伝子検査

(1) 親子判定及び個体識別検査

公益社団法人日本馬事協会から依頼された検体の親子判定及び個体識別検査を実施した。その結果、4 件の親子関係が否定された。

(2) 毛色検査

公益社団法人日本馬事協会から依頼された検体について、芦毛を決定する遺伝子の検査を実施した。

3) 競走馬の遺伝子ドーピング検査

競馬主催者から依頼された 5,736 件の検体について、遺伝子ドーピング検査を実施した。その結果、全て陰性であった。

4) 馬伝染性子宮炎の検査

日高家畜衛生防疫推進協議会等から依頼された 2,213 件の検体について、PCR 検査を実施した。その結果、全て陰性であった。

5) 競走馬のスピード遺伝子及び体高遺伝子検査

馬主、調教師及び馬生産者から依頼された検体について、競走馬の距離適性及び体高に関連する遺伝子の検査を実施した。

6) その他の遺伝子検査及び免疫学的検査

ユニバーサルドナー選定のための検査、日本在来馬の個体識別検査、馬の遺伝情報の受託解析、木曾馬種の保存事業における受託研究等を実施した。

7) 遺伝子分析等に関する調査研究

(1) 遺伝学的及び分子生物学的調査研究

「標的非特異的な遺伝子ドーピング検査法の開発」

本研究は、人工的に設計された DNA 配列を標的とすることで遺伝子ドーピング物質を標的非特異的に検出する手法の開発を目的とし、2023 年度から 2 年計画で実施している。

2023 年度は、デジタル PCR 法を使ってプラスミドベクター特異的配列である pUCFa 及び CoIE1 を標的とした検出法を開発し、血漿への添加回収試験によって遺伝子ドーピング物質を検出できることを確認した。加えて、 π コード技術による遺伝子ドーピング物質の検出法を開発した。

「遺伝子ドーピング検査及び遺伝子改変検査の安定的実施に向けた改良」

本研究は、遺伝子ドーピング検査及び遺伝子改変検査で問題となる事案への対応やデータベースの情報充実により、両検査をより安定的に実施できるように改良することを目的とし、2023 年度から 2 年計画で実施している。

2023 年度は、採取血液の凍結保管と自然あるいは水浴融解による血漿分離法を検討し、凍結融解後血漿から遺伝子ドーピング物質を検出方法を確立した。また、サラブレッド 101 頭の全ゲノム情報から挿入・欠失配列を探索し、当該配列の頻度情報等を抽出してデータベースとして整理した。

「日本のウマ集団における遺伝子多型性の調査」

本研究は、遺伝子改変検査等に資するデータベース構築の一環として日本のウマ集団における遺伝子多型性を調査することを目的とし、2023年度に単年度計画で実施した。

他の動物種で多様性が報告されている cathelicidin 遺伝子(CATH)について調査したところ、サラブレッド集団では、3種類のウマ CATH (eCATH1、eCATH2、eCATH3) において非同義置換はなく、コピー数多型については eCATH1 にのみ欠損が検出された。一方、在来馬集団（北海道和種、木曾馬、対州馬、トカラ馬、宮古馬及び与那国馬）では、北海道和種と木曾馬の eCATH2 にのみ 3 個の非同義置換が確認され、2 種類のハプロタイプが同定され、また、すべての集団において 3 種類のウマ CATH の異なる個数のコピー数多型を確認した。

(2) 受託研究

「ドーピング検査のバイオマーカーとなるマイクロ RNA の探索」

本研究は、ドーピング物質として注目され、またヒトにおいては妊娠期にその量が増加することが報告されている成長因子及び造血因子について、そのドーピング検査のバイオマーカーとしてマイクロ RNA を応用するための基礎的情報を得ることを目的とし、2023年度から2年計画で実施している。

2023年度は、妊娠馬8頭から経時的に血漿を採取し、エリスロポエチン (EPO)、インスリン様成長因子 (IGF-1) 及び成長ホルモン (GH) の濃度を測定した。その結果、EPO 濃度が妊娠後期に増加することを認めた。さらに、血漿中 RNA の次世代シーケンスによる網羅的解析を行い、EPO 濃度の増加に伴って変動する可能性があるマイクロ RNA 22 種を選抜した。

「日本のサラブレッド集団の遺伝的多様性に関する調査」

本研究は、20年前及び近年の日本のサラブレッド集団を対象に近交係数等の経時的変動を調査し、遺伝的多様性の指標となる値の基礎的情報を得ることを目的とし、2023年度から3年計画で実施している。

2023年度は、2000年度及び2018年産駒集団の各48頭の牡馬を選抜して、ヘテロ接合度、近交係数である FIS 及び FROH を算出した。その結果、2000年から2018年にかけて、集団のヘテロ接合度は僅かに減少し、FIS は共に負の値を示した一方、FROH は僅かな増加を示す成績が得られた。

(3) 調査研究成果の報告及び情報収集

7月に南アフリカ共和国で開催された第39回国際動物遺伝学会 (ISAG) 学術集会に3名が参加し、2題の研究成果を発表した。

9月に香港で開催された第23回競馬分析化学者及び競馬獣医師の国際会議（ICRAV）に1名が参加し、1題の研究成果を発表した。

その他、国内外の会議及び学術集会に延べ33名が出席した。

8) 遺伝子検査法審議委員会の開催

(1) 委員

氏名	職名等
荻野 敦	(一社)家畜改良事業団 家畜改良技術研究所 遺伝検査部上席専門役
木崎 景一郎	(大)岩手大学大学院獣医学研究科 教授
永岡 謙太郎	(大)東京農工大学大学院農学研究院 教授
平野 貴	(学)東京農業大学農学部動物科学科 教授
福井 えみ子	(大)宇都宮大学学術院 教授

任期：2022年9月1日～2024年3月31日

(2) 委員会の開催

第2回遺伝子検査法審議委員会を10月28日開催し、馬の親子判定及び個体識別のための検査の方法及び判定基準の一部改正及び馬の遺伝子ドーピング検査法の一部改正について審議を行い、承認が得られた。

9) 技能試験への参加

国際動物遺伝学会（ISAG）が実施するホースコンパリソンテスト 2022-2023 に参加し、正答率 100%の成績を収め、ランク 1 を維持した。

3 国際リファレンスラボラトリー体制強化事業

本事業は、国際競馬統括機関連盟（IFHA）と国際馬術連盟（FEI）のそれぞれから2021年度及び2022年度にかけて認定された国際資格を安定的に維持していくため、研究所のリファレンスラボラトリーとしての体制を強化することを目的とし、日本中央競馬会の助成により2023年から5年計画で実施している。

1) 分析機器の整備

液体クロマトグラフ高分解能質量分析計等の分析機器を購入し、海外検体と陰性

検体交換プログラムの薬物検査を実施するために不足する機器を整備した。

購入分析機器

分析機器名	数量
液体クロマトグラフ高分解能質量分析計	2
液体クロマトグラフタンデム質量分析計	2

2) 標準品等の購入及び陰性検体交換プログラムの実施

2022年度から国際競馬統括機関連盟（IFHA）がリファレンスラボラトリーに対して実施する陰性検体交換プログラムに参加した。本年度は、英国薬物検査機関のLGCから受領した陰性検体を検査したほか、研究所から豪州RASLに陰性検体を送付するなど、海外薬物検査機関と相互に陰性検体を交換して陰性の確認を行った。また、試験所としての検査能力の外部評価として、アジア品質保証プログラム（AQAP）による年4回（各回尿検体15件）の陰性検体交換プログラムに参加した。

これら、陰性検体交換プログラムの実施に必要な標準品、海外の競馬・馬術検体を対象とする薬物検査に使用する標準品121品目等を購入した。

3) 国際業務の体制強化

国際業務の体制強化のため、海外の薬物検査機関で実務経験のある外国人分析化学者を雇用し、海外の競馬主催者及び馬術連盟、薬物検査機関等との連絡、調整、協議等への対応及び国際会議へ参加したほか、公認競馬化学者協会（AORC）理事会の職権委員に就任し、薬物規制に関する国際的な技術レベルの向上に係る議論等に参画した。

また、将来的にその役割を担える人材を育成するため、薬物分析部職員1名を5月より1年間の予定でLGCへ派遣し、現地語学学校での語学研修を経て、7月末からLGCでの技術研修を実施した。期間中、仏国薬物検査機関LCH訪問、ノルウェー王国（オスロ）で開催された欧州競馬科学連絡委員会（EHS LC）メインミーティング参加等により検査技術の情報交換や研究成果の発表等を行った。

4 その他

研究成果の普及、啓発及び学術への寄与を目的に、研究報告、学会発表、論文報告、書籍及び雑誌への寄稿、技術指導、講師派遣、広報活動、企画の監修、見学の受入れを実施した。

1) 研究報告会

2022 年度日本中央競馬会委託研究の成績を報告書に取りまとめて提出すると共に、6 月 27 日に競走馬理化学研究所大会議室において報告会を開催し、口頭報告した。

2) 学会発表

学会名（開催地、開催日）	発表者
令和4年度 分析イノベーション交流会（東京、1月18日）	山田雅之
第71回日本質量分析討論会（大阪、5月15日～17日）	大沼康平
第39回 ISAG 学術集会（南アフリカ、7月2日～7日）	戸崎晃明、石毛太一郎
第166回日本獣医学会学術集会（オンライン、9月5日～8日）	菊地美緒
第23回 ICRAV（香港、9月17日～23日）	山田雅之、石井英昭、 内田大雅、大沼康平、 戸崎晃明
欧州競馬科学連絡委員会メインミーティング（ノルウェー、10月23日～25日）	南島陽平
日本動物遺伝育種学会第24回大会（熊本、11月18日～19日）	石毛太一郎
第46回日本分子生物学会年会（兵庫、12月6日～8日）	戸崎晃明

3) 論文報告

報告誌名、年、巻（号）、頁	筆頭著者
Analytical Chemistry 2023 Jul;95(27):10149-10154.	大沼葵
Animal Genetics 2023;54(5):662-663.	戸崎晃明
Animal Science Journal 2023;94(1):e13854.	石毛太一郎
Genes (Basel). 2023;14(3):638.	戸崎晃明
International Journal of Molecular Sciences 2023;24(19):14515.	菊地美緒
Journal of Analytical Toxicology 2023;47(7):623-631.	石井英昭
Journal of Equine Science 2023;34(2):21-27.	戸崎晃明
Journal of Equine Science 2023;34(2):47-49.	榕裕永
Journal of Equine Science 2023;34(3):83-92.	戸崎晃明
Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis 2023;235:115600.	石井英昭
Journal of Veterinary Medical Science 2023;85(6):647-652.	菊地美緒

その他共著論文 8 編

4) 書籍及び雑誌への寄稿等

書籍「サラブレッドの生物学「競走馬の速さの秘密」(株式会社エヌ・ティー・エス)」、書籍「遺伝子検査技術－遺伝子分析科学認定テキスト(公益社団法人日本臨床検査同学院)」及び小冊子「白毛図鑑純白のサラブレッド(公益財団法人馬事文化財団)」に、分担執筆記事を寄稿した。

5) 技術指導及び講師派遣

日本大学大学院獣医学研究科他3件の馬の遺伝学的研究に関する技術指導等を実施した。また、分析イノベーション交流会他8件の競走馬の薬物検査又は遺伝子検査等に関する講演を実施した。

6) 広報活動

競走馬の遺伝子検査について、JRA ブリーズアップセール(4月25日)で来場者への説明やパンフレット配布を行った。また、セレクトセール(7月10日及び11日)においてパンフレットを配布した。

7) 企画の監修

対馬市主催「対州馬展(対馬博物館)」及び公益財団法人馬事文化財団主催「特別展 白毛図鑑純白のサラブレッド(JRA 競馬博物館)」を監修した。

8) 取材及び見学者の受入れ

競馬主催者の役職員、調教師、厩務員、騎手の候補生等を対象に、28件、162名の見学者を受け入れた。

Ⅲ 組織運営

1 品質保証

1) ISO 試験所認定審査の受審

12月13日及び14日に公益財団法人日本適合性認定協会（JAB）によるISO/IEC 17025:2017（JISQ 17025:2018）第5回再審査を受審した。

2) 内部監査及びマネジメントレビューの実施

定期マネジメントレビューを1月27日に開催し、2023年度における品質目標を設定した。また、この目標に従って行った業務について17回の内部監査及び品質保証試験を実施した。

2 法人管理

1) 評議員及び評議員会

(1) 評議員

氏名	職名等	備考
秋元 稔弥	地方競馬全国協会 理事	3月1日から
臼田 雅弘	日本中央競馬会 常務理事	
菊田 淳	日本中央競馬会 理事	
釘田 博文	国際獣疫事務局 アジア太平洋地域代表	8月1日から
鈴木 基義	全国公営競馬主催者協議会 常任理事	
田原 文夫	(株)すかいらーくホールディングス 社外取締役	
茂木 秀仁	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 理事	3月10日から
木村 一人	日本中央競馬会 前常務理事	2月28日まで
岩元 正文	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 前理事	3月10日まで
鈴木 邦則	全国公営競馬主催者協議会 前常任理事	7月31日まで

任期：2026事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

(2) 評議員会の開催

評議員会を次のとおり開催した。

第1回評議員会 2月27日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

議案 評議員の選任について

第2回評議員会 3月10日

（決議事項）

第1号議案 令和4年度事業報告及び決算について

第2号議案 評議員の改選について

第3号議案 役員改選について

第3回評議員会 7月28日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

議案 評議員の選任について

第4回評議員会 12月8日

（決議事項）

第1号議案 2024年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について

2) 役員及び理事会

(1) 役員

役職名	氏名	主な経歴	備考
理事長 (常勤)	安齊 了	日本中央競馬会 監事	
常務理事 (常勤)	側原 仁	(公財)競走馬理化学研究所 薬物分析部長	3月10日から
	坂東 義和	地方競馬全国協会 参与	
理事 (非常勤)	生野 等	地方競馬全国協会 理事	3月10日まで
	間 弘子	日本中央競馬会 参与	3月10日から
	兼丸 卓美	日本中央競馬会 競走馬総合研究所長	3月10日まで
監事 (非常勤)	佐藤 信博	日本中央競馬会 新潟競馬場長	
	岩崎 幸治	地方競馬全国協会 理事	

任期：2024事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

(2) 理事会の開催

理事会を次のとおり開催した。

第1回理事会 2月22日

(決議事項)

- 第1号議案 令和4年度事業報告及び決算について
- 第2号議案 評議員後任候補者の選定について
- 第3号議案 評議員会の決議の目的である事項の提案について
- 第4号議案 評議員改選候補者の選定について
- 第5号議案 役員改選候補者の選定について
- 第6号議案 令和5年度第2回評議員会の招集について

(報告事項)

1. 令和5年度第1回財産運用検討会の審議結果
2. 令和4年度収支予算の流用結果

第2回理事会 3月10日

(決議事項)

議案 代表理事及び業務執行理事の選定について

第3回理事会 6月21日

(決議事項)

- 第1号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について
- 第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所薬物検査法審議委員会運営規則の一部改正について
- 第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所遺伝子検査法審議委員会運営規則の一部改正について
- 第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員就業規則の一部改正について
- 第5号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員退職手当支給規程の一部改正について
- 第6号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所旅費規程の一部改正について

(報告事項)

理事の職務の執行状況

第4回理事会 7月11日

(みなし決議事項)

- 第1号議案 評議員後任候補者の選定について

第2号議案 評議員会の決議の目的である事項の提案について

第5回理事会 9月27日

(決議事項)

第1号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の飼料検査受託規程の一部改正について

第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職務権限規程の一部改正について

第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所文書取扱規程の一部改正について

第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所嘱託に関する規程の一部改正について

第5号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所理事会が認める理事長があらかじめ実施できる事項を定める通達の一部改正について

第6号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の薬物検査法の一部改正について

第7号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の薬物検査受託規程の一部改正について

第6回理事会 11月17日

(決議事項)

第1号議案 2024年度事業計画及び収支予算について

第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について

第3号議案 令和5年度第4回評議員会の招集について

第4号議案 馬の親子判定及び個体識別のための検査の方法及び判定基準の一部改正について

第5号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の遺伝子ドーピング検査法の一部改正について

第6号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の遺伝子改変検査法の一部改正について

第7号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の個体識別検査受託規程の一部改正について

第8号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所遺伝子検査法審議委員会運営規則の一部改正について

第9号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所薬物検査法審議委員会運営規則の一部改正について

第10号議案 2024年度競走馬理化学研究所における国際リファレンスラボラトリ

一 体制強化事業実施要領の制定について

(報告事項)

1. 理事の職務の執行状況
2. 第2回遺伝子検査法審議委員会の審議結果
3. 令和5年度第2回財産運用検討会の審議結果

3) 管理業務

(1) コンプライアンス意識の向上

役職員に対するコンプライアンス研修を実施し、コンプライアンス意識の向上及び業務への積極的な参画を促した。また、法令違反行為等を汲み上げられる内部通報制度の構築に着手した。

(2) 各種委員会の開催

研究所事業に用いる化学物資、危険物、生体試料などの特殊性に鑑みて、安全、防火、環境保全に関する各種委員会を開催し、取り組み状況の確認、検証、改善等を行った。

(3) 業務の効率化

所内グループウェアを始めとする各種コンピューターシステムについて、情報の可視化や共有化の観点に立った機能の充実を図り、業務の適時性と効率性を高めた。

(4) 労働環境の改善

社会及び業務の環境変化に対応したより働きやすい職場構築に向けて、所内文書、職務権限、労働条件等に関する規程を見直した。

4) 人事異動

(1) 職員	採用	2名	退職	0名
--------	----	----	----	----

(2) 嘱託	採用	0名	退職	2名
--------	----	----	----	----

役職員等の状況

区 分		1月1日現在	12月31日現在
役員	理 事	4 (1)	4 (1)
	監 事	2 (2)	2 (2)
参 与		3 (1)	3 (1)
職員	総 務 部	11 (1)	13 (1)
	薬 物 分 析 部	28	28
	遺 伝 子 分 析 部	5	5
	小 計	44	46
嘱託	総 務 部	2	-
	薬 物 分 析 部	17	17
	遺 伝 子 分 析 部	1	1
	小 計	20	18
合 計		73 (4) (1)	73 (4) (1)

括弧内は、非常勤の人数で、内数である。

山括弧内は、日本中央競馬会からの出向者の人数で、内数である。

3 人材育成

当研究所が取り組む施策を着実に実施できる人材を養成するため、以下の研修を実施した。

1) 組織研修

研究所主催による馬生産地研修のほか、外部セミナーの受講又は競馬関係団体主催による研修を対象に職員 19 名を参加させた。

2) 専門研修

英国薬物検査機関への派遣、学位取得の支援を職員各 1 名に対し実施した。また、外部セミナー又は英会話教室を職員 10 名に受講させ、総務事務及び語学力を向上させた。

3) 一般研修

職員及び嘱託の希望者には資格・語学等の通信教育への参加を支援し、社会人並びに組織の一員としての教養・スキルを向上させた。

4 附属明細書の省略

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項がないため、省略した。